



2023(R5).10.1 発行
No. 239
愛媛県立図書館報

らいぶらり えひめ
Library Ehime

「植物学の父」牧野富太郎博士に憧れて

愛媛県立図書館長
豊田 益実

いつも県立図書館をご利用いただきありがとうございます。今年4月より愛媛県立図書館の館長を務めております。元々は県立高校の理科教員で、昨年度までは愛南町の南宇和高校で生物の授業を担当していました。高校の教員は生徒を教える教育者としての仕事以外に研究者としての一面も持っています。私は、30年余り「きのこ」（真菌類）の研究を続けてきました。仕事をしながら自分の好きな生物の研究ができるのですから、ある意味天職です。

ところで、4月から朝の連続テレビ小説で植物学者の牧野富太郎博士の生涯が紹介されました。私は、このドラマがおもしろくて、欠かさず見てから出勤していました。図書館の出勤時刻は9時30分なので、十分間に合うのです。高校に勤めていたら、この番組を見ることはなかったでしょう。生物学に関わる者にとって、牧野博士は憧れの先生です。一般の人から見ると、奇人変人に思えるかもしれませんが、私と相通じる点や、共感する点があるので、紹介させていただきます。

牧野博士は、土佐（高知県）をはじめとして、日本中の植物（主に草本）を調べて同定しましたが、私は、今治市にある大三島のきのこをはじめとして、愛媛県内のきのこを調べました。牧野博士に比べると、規模は格段に小さく内容も稚拙なのですが、生物の研究会で発表する機会をいただき、とても幸せな時間を過ごしました。その際に欠かすことができないツールが図鑑です。教員人生の中できのこの図鑑を作ろうと決意したこともありましたが、すぐに挫折しました。莫大な時間と労力、資金が必要なのです。個人が成し得るものではありません。しかし牧野博士はそれをやり遂げたのです。その集大成が『牧野日本植物図鑑』です。この図鑑のすごいところは、植物の図が写真ではなく、牧野博士による手描きのイラストであるということです。（一部分は彼の指導を受けた専属の画工が担当している部分もあるそうです。）イラストの掲載数は1940年発刊の初版で既に3,200点以上、最新版では5,000点を超えます。図鑑の画像が写真ではなく、イラストであることについては、「イラストより写真の方が正確じゃないの?」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、葉のつき方、枝分かれの仕方、根元はどうなっているかなど、意外

と写真では分かりにくいことが多いのです。写真は、大抵、野外で群生していたり、他の植物と一緒に写っていたりするので、葉のつき方や、実際の植物の全体の様子は全く分かりません。植物とは関係のないバックの景色が映り込んでいることもあります。この図鑑は全てイラストなのですが、ものすごく植物の細かい部分やつくりが分かりやすい！茎の様子（太さや色、まっすぐか、曲がっているか）や葉のつき方（互い違いについていたり、一箇所から対になっていた）、花のつき方、枝分かれの仕方、根元の様子など。根元の様子なんて、写真だと100%葉で隠れていますから。今後新規に、これと同様の図鑑を作ることは、膨大な労力やコストの面から不可能であり、牧野博士の熱意と時代が作り上げた「図書文化遺産」と言ってもよいでしょう。

当館は、この図鑑をはじめ、入門用から専門的な研究用まで様々な図鑑を所蔵しています。イラストではなく写真を採用している図鑑と見比べていただくのもよいと思います。ぜひ手に取ってご覧ください。皆さんに楽しんでいただけるものと思います。また、牧野博士に関係する参考図書も多数ありますので、当館の司書にお問い合わせください。ご希望に合う本と一緒に探したいと思います。

個人の研究者は周囲からの理解を得られず、誤解を招いてトラブルになることがあります。ドラマの中で牧野博士は、土佐の自由民権運動に参加して、警察に疑われ、拘留されてしまいました。後に祖母に助けてもらったのですが、私も大山祇神社の森できのこの写真を撮影しているときに、私服刑事に疑われて、警察署に連行されそうになったことがあります。実は撮影の前夜に神社の奥の院が火災に見舞われ、全焼しました。放火の疑いがあったのですが、それを知らない私は、夜が明けるころに一人で神社の森に座り込み、ゴソゴソときのこの写真を撮っていたのです。怪しいですよ。誰が見ても不審者です。「私は怪しい者ではありません。」といくら弁明しても刑事さんは「放火魔はみんなあなたと同じことを言います。」と言って信じてくれません。幸い私の場合は、祖母ではなく大三島高校の校長先生が警察に交渉してくださり、難を逃れることができました。今となっては、懐かしい思い出です。

ブックトーク事業のこれから

本と出会える機会の大切さ

県立図書館が子どもの読書活動推進事業の要として進めてきたブックトーク事業ですが、令和5年度で18年目となりました。当初は司書1名で実施していましたが、今では読書振興グループ4名で年間10校において開催しています。



小学校でのブックトーク実践の様子

開催の都度、「子どもの読書離れ」ではなく「本と出会える機会の大切さ」を実感します。

そのため私たちは、テーマに沿った本を吟味して、あらすじを途中まで紹介したり、印象に残る写真を見せたり、作者のエピソードを紹介したりと、工夫を凝らして台本を作ります。その台本を推敲し覚えて練習を重ねても、当日は子どもの前で緊張して忘れてしまうこともしょっちゅうです。

それでも、真剣に聞いてくれ、うなずいたり、笑ったり、声を上げてくれたりする姿や、紹介した後に、本に駆け寄り、友達と一緒に本を手取る姿に、「読んでみたい」という声に、ブックトークの効果、本の素晴らしさを実感するのです。

ブックトーク実践者の裾野を広げて

とは言え、県内全ての学校へ行くことは不可能です。

そこで、これまでも事業や依頼等によりブックトークを実施できる図書館へ協力をお願いします。令和5年度は西条市立図書館へ依頼しました。

また、「ブックトークはじめま専科」という研修会を年に2回程度開催しています。令和4年度は西予市・大洲市・今治市・松前町の図書館で職員研修日に合わせて行いました。

これからも、ブックトークの実践者の裾野を広げて、愛媛の子どもたちと本との出会いを応援していきます。



ブックトークはじめま専科の様子

(読書振興グループ 東 智子)



「まなぼん」活用しませんか

「まなぼん」ってなんだ!?

令和3年度補正予算「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」から、子どもと本との出会いに貢献するために作成した、学校への一括貸出ができる図書箱のことです。環境や防災、福祉など様々なテーマと、小学校低学年、中学年、高学年、中学・高校、特別支援学校(級)との対象別に本を分類し、1箱30冊~40冊程度にまとめました。送料は県立図書館が負担し、申込みから10日以内に届くように発送しています。

詳しくは
コチラ



内容一覧表
(Web書棚あり)

「まなぼん」をどう使う!?

(1) 修学旅行の事前・事後指導

広島県への修学旅行を実施する多くの小学校から「戦争と平和」を申し込まれ、年度当初は7箱すべて貸出中となりました。

(2) 夏休み・冬休み前の貸出

児童・生徒の興味・関心をひく本の所蔵が少ない学校では、夏休み前に「愛媛の作家」や「探検しよう!本の国セレクト」を申込みいただき、生徒の多様な要望に応えられるようにしました。

<活用例>

校種	並行読書に	総合的な学習(探究)の時間に
小学校	66-1 レオ・レオニ 67-3 宮沢賢治	21-1 高齢者福祉 18-2 町探検
中学校	61-3 古典を読む 71-4 愛媛ゆかりの作家	5-4 SDGs 39-3 ごみ問題
高等学校	14-4 公民学習 54-4 日本の名著	16-4 国際理解 17-4 キャリア教育

とにかく利用してほしい!

本はそのものにも価値はありますが、読まれてこそ真価を発揮するものです。コロナ禍を経て学校生活が通常に戻りつつあるなかで、さらにプログラミング教育が導入されたり情報が必修科目となったりしています。ますます多忙を極める教育現場ですが、子どもと本との出会いの場をぜひ作っていただき、読むことの楽しさを味わってほしいと思います。



「まなぼん」を利用する児童

(読書振興グループ 川端 恵美)

新しいウェブサービスの 開始について

愛媛県立図書館では、令和4年12月に図書館システムを更新しました。それに伴い、ウェブ上で開始した新しいサービス等を紹介いたします。

1 スマートフォンで資料が借りられます

ホームページのスマートフォン用メニューで「MYライブラリ」にログインすると、利用カードの番号がバーコード表示され、それを提示することで、資料が借りられます。

既に利用カードをお持ちで、「MYライブラリ」に登録している方が利用可能なサービスです。



2 ホームページから借出登録が可能です

愛媛県内に在住・在勤・在学の方で、初めて利用カードをお作りになる場合は、ホームページから借出登録ができます。詳しくは、ホームページ（>利用案内>借出登録：インターネットでの借出登録）をご参照ください。

借出しの際は、スマートフォン等でバーコードをご提示いただきます（上記1参照）。現物の利用カードは発行しませんので、ご注意ください。

3 蔵書検索の機能が拡充しました

ホームページで蔵書を検索した際、検索した資料の前後に並んでいる資料を本棚のように見ることができる「Web書棚」の機能を追加するとともに、資料の表紙を表示するようにしました。

また、県内図書館の蔵書を一度に検索する「愛媛県内図書館等横断検索」の操作性が向上し、スピーディーに検索できるようになりました。

4 「MYライブラリ」のパスワードを一斉変更しました

セキュリティ強化のために、既に「MYライブラリ」に登録されている方のパスワードを一斉変更しました。令和4年12月以降に最初にログインする際は、「誕生日の西暦8ケタ」を入力してください。

5 ホームページのURLが変わりました

ホームページのデザインを一新し、スマートフォンでも見やすいレイアウトに変更しました。

新URL <https://lib.ehimetosyokan.jp>

（相談グループ 橘 可奈子）

つながる～ひろがる～ 資料の展示

当館では、1階子ども読書室、3階一般図書室、4階えひめ資料室の各閲覧室で、1年を通じて、趣向を凝らした資料の展示をしています。そのうち、外部機関の催し等と連携して実施した展示をご紹介します。

1 宮本常一、愛媛をあるく

－地域に寄り添うフィールドワーク－

＜R5.1.4～4.27＞

宮本常一記念館（山口県）所蔵の写真と、当館所蔵の関連資料を通じて、宮本の愛媛県内の足跡や地域に注いだまなざしを紹介しました。昨年、愛媛県立医療技術大学図書館で開催されたものを、当館でも「巡回展」という形で開催し、雑誌「しま No.272」（日本離島センター刊）や愛媛新聞で紹介されました。



2 身近にがんを考える

＜R5.2.1～3.21＞

国立がん研究センターが制作したがんの治療や検診等に関するパネルと選定資料による展示キットが、全国の図書館を巡回し、当館もこの巡回展に参加しました。四国向けのローカルニュースで紹介され、県外からも問合せがありました。

3 大竹伸朗本

＜R5.4.11～6.29＞



宇和島市在住で、現代日本を代表するアーティスト大竹伸朗氏の多彩な魅力を、自身の作品集や、氏の人物像が掲載された資料等で紹介しました。愛媛県美術館で開催された回顧展との連動企画です。

4 廣嶋玲子さんの世界

＜R5.4.15～6.18＞

愛媛県歴史文化博物館の特別展に合わせて、作者の廣嶋玲子さんの本を展示・貸出しました。

期間中は、銭天堂のおかみのポスターが、子ども読書室の来館者を出迎えてくれました。

（相談グループ 橘 可奈子）

都道府県立図書館サミット2022参加記

【サミットの概要】

令和4年11月27・28日に鳥取県立図書館を会場として「都道府県立図書館サミット2022」が開催されました。このサミットは、「都道府県立図書館と基礎自治体」「これから（未来）の図書館 情報・空間・人」をテーマとして、様々な立場・視点からの発表をもとにしながら議論を深め、各々が得た学びと気づきを地域に還元することを目的としたイベントです。

1日目は、「チェックイン・アンカンファレンス」「47都道府県『自慢』リレートーク」にはじまり、基調講演「都道府県立図書館論のこれまでとこれから」、石川県と鳥取県の県立図書館長によるクロストーク、長野県と鳥取県の事例をもとに都道府県立図書館の役割を考えるセッションが行われました。

2日目は、「図書館事業経営のアライアンス（提携）」「図書館の可能性：空間そして情報・人の融合」をテーマとしたセッション、そして「社会的装置としての“図書館”を考え、行動し続けるために」をテーマに、全都道府県立図書館の要覧について比較分析、サミット全体の振り返りが行われました。

都道府県立図書館サミットといいながらも、県立図書館関係者だけでなく、様々な立場の人が、全国各地から、会場だけでなくオンラインでも集い、議論する、熱気あふれるイベントでした。なお、当日の資料は鳥取県立図書館 (<https://www.library.pref.tottori.jp/2022.html>)、動画は図書館総合展 (<https://www.libraryfair.jp/forum/2022/518>) のウェブサイトにて公開されており、またサミットの特集記事が『ライブラリー・リソース・ガイド 第43号』（アカデミック・リソース・ガイド）に掲載されています。

*都道府県立図書館サミットの活動は、Library of the Year 2023 特別賞（NPO法人知的資源イニシアティブ）を受賞しました。

（相談グループ 天野 奈緒也）



都道府県立図書館サミットの様子

【サミットに参加して】

サミットの情報量と熱量は、自身の知識不足と考えの浅さを痛感させられるものでした。サミットを盛り上げた方々は、深い洞察力に加え、伝える言葉をもっておられました。愛媛県立図書館にはもっとできることがありますし、図書館を通じた全県的な文化の振興もできると思っています。あらゆる分野や立場の人と話し合い、愛媛の図書館を次に進めるために、現状と展望に対する「解像度」を高め、自分の言葉を養い、発信できる力をもちたいです。

（図書整理グループ 伊井 友世）

初めて都道府県立図書館サミットに参加し、全国の都道府県立図書館職員の皆さんとお会いする貴重な機会を得ることができました。鳥取県立図書館や県立長野図書館等、一歩も二歩も先に進んだ図書館の取組を聞き、大いに刺激を受けました。なにより、全国に熱い気持ちを持って業務に励んでいる図書館職員が大勢いることを知ったことは、心強くもあり、また自分ももっと頑張らなければいけないと、気持ちを新たにさせられました。

（読書振興グループ 岡本 かおり）

北は北海道、南は沖縄県、そしてオンラインで……。2日間のサミットに参加するため、全国から図書館に関わる方々が鳥取県に集まり交流しました。都道府県立図書館の役割・意義とは何か。愛媛県立図書館に勤めて4年目となりましたが、勤務年数を重ねれば重ねるほど深まる問いです。各セッションを聴きながら、今回のサミットで出会った方々も同じ問いを抱えながら、日々の図書館の仕事に携わっているのだと感じました。そして、この問いの先に見つけた「解」が、新しく開館した石川県立図書館であったり、鳥取県立図書館の「いかに全県の図書館力を上げるか」、「どこの市町村も取り残さない」を核とした県立図書館と市町村立図書館の取組であったり、県立長野図書館の「信州デジタルコモンズ」なのだと思います。愛媛県立図書館が、今後どのような「愛媛の図書館」を創っていくのか。そこには市町の図書館をはじめ、学校図書館や様々な分野の図書館関係者、社会教育関係者の協力と連携が不可欠です。これからも利用者の方々が必要とする「愛媛の図書館」と愛媛県立図書館像を問い続けながら、日々の業務に励みたいと思います。

（図書整理グループ 堀内 悠加）

えひめ資料室の書架増設

当館4階のえひめ資料室は、「えひめのことは何でもわかる地域の情報拠点」となるよう、愛媛県に関する資料と俳句資料を揃えた資料室として、平成21年4月のリニューアルにより開室しました。それまで、当館の4階と5階は、愛媛県立博物館（平成21年2月閉館）でした。当時の小中学生たちにも親しまれていたジオラマの一部は、壁で覆われた状態で、図書館にリニューアル後は、その壁面を利用して、郷土資料の展示等を行ってきました。

しかし、当初から展示専用で作られたスペースではなかったため、安全性の観点から令和3年度に大きなガラスを撤去し、増加する蔵書への対応を考え、令和4年11月のシステム更新休館時に書架を増設することになりました。

図書館の要は、充実した資料です。4段書架を16連増設したことで、開架部分に置ける資料を約2,000冊増やすことができました。この増設書架を含めた場所に、歴史・伝記・地理の分類の図書を配置替えしたことで、よく利用される分野の資料を、机の近くで利用できるようになりました。また、逐次刊行物等の配置場所を同時に見直し、利用しやすい配置となるよう努めています。

これを機会に、えひめ資料室をますますご利用いただきますよう、よろしくお願いたします。



当館では、県内の郷土資料・行政資料及び俳諧資料の網羅的な収集に努め、「県民にとって役に立つ図書館」を目指しています。郷土資料等の収集にあたっては、皆様のご協力が欠かせません。ご著書を出版した、不要になった会報や記念誌を処分しようと思っている、実家を片付けていると家族やその友人が発行した句集や雑誌があった等、このような場合は、お手数ですが、ぜひ愛媛県立図書館にご寄贈ください。ご寄贈いただいた資料を利用に供するとともに、郷土の記録として保存に努め、後世に残してまいります。

(図書整理グループ 柚山 紀子)

使ってみよう!古地図検索

令和4年度の図書館コンピュータシステムの更新で、いくつか新しい機能が追加されました。その一つに「古地図検索」があります。



※蔵書検索画面からご利用ください。

<https://www.ehimetosyokan.jp/winj/opac/top.do?lang=ja>

県立図書館が所蔵する行政資料のうち、近世から近代にかけて作成された115点の絵図を、デジタルアーカイブでWeb公開しています。「そんな昔の地図を見ても、どこだかわからない」と思うかもしれません。ところが、川や池、神社や仏閣などを拠り所に辿ってみると、現在のどの辺りかわかってくると思います。変わらないものがあるって大切ですね。

しかし、中には時代を経て開発を重ね、わかりにくくなっている場合もあります。そこで、図書館システムで絵図とGoogleマップを併せて表示する機能を設けました。



テキスト検索だけでなく地図から選ぶこともできます。見たい地域をクリックして検索ボタンを押すと、明治時代等と現代の地図が選べますので、両方表示して比べてみてください。

※古地図のない地域もございます。ご了承ください。

(図書整理グループ 中村 由紀)

